

Dell™ PowerEdge™ システム用
Microsoft® Windows
Server® 2008 With SP2

重要情報

メモおよび注意について

 **メモ**：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意**：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
© 2009 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、および PowerEdge は Dell Inc. の商標です。Intel および Xeon は米国その他の国における Intel Corporation の登録商標です。Adaptec は Adaptec Inc. の登録商標です。Microsoft、Windows Server、Hyper-V、Windows NT および Windows は米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。Dell Inc. はデル以外の商標や社名に対する所有権を一切否認します。

目次

概要	9
サポートされている最も低いバージョン - BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ	9
既知の問題	13
iSCSI オフロードへの Windows Server 2008 SP2 のインストールが失敗する	13
2つの PERC コントローラを使用したセット アップ中に画面が青色になる	14
msinfo32 レポートで NIC の取り外しがアッ プデートされない	14
RAID ボリュームを複数作成すると、 Windows Server 2008 SP2 をインストー ルできない	14
Java がロードされていると、 Internet Explorer 7.0 で XML ファ イルが開かない	15
リムーバブル記憶域メディア (RSM) のワークキュー表示用のアイコンに詳 細が表示されない	15
Windows Server のバックアップツール を使用して PowerVault™ RD1000 リムー バブルディスクドライブ上に定期バック アップを行うことができない	16
イベントビューアのログにページファ イルサイズが不十分であることを示す 赤い警告マークが表示される	16
Windows Server Core で、システム 情報の画面にネットワーク情報が 表示されない	17

Dell IT Assistant に Windows Server 2008 SP2 用のネットワークアダプタ用ドライバフ ァイルの完全なパスが表示されない	17
Dell 39320A SCSI Ultra320 Lead コントロー ラカードに接続している場合、デバイス マネージャに Dell PowerVault 124T DLT VS160 Autoloader が表示されない	17
Windows Server 2008 SP2 が実行されてい るシステムで Dell IT Assistant 8.2 にログ インできない	18
復元の初回試行時に Windows NT® パッ クアップ/復元ユーティリティが間欠 的に失敗する	18
PowerVault RD1000 リムーバブル記憶域 メディアをフリーカテゴリに置いてお くとリムーバブル記憶域マネージャ (RSM) にエラーメッセージが表示さ れる	18
ファームウェアバージョン 78 を使用す る BIOS リビジョン 0.2.4 と PERC 6i コン トローラカードを備えた Dell PowerEdge T605 システムで、再起動ごとにシステムイベン トログが生成される	19
デフォルトでは、クラスタのイベントログ が時系列表示になっていない	19
iSCSI LUN (IBFT を使用して接続) があっ てサーバーから認識できる場合、 Windows Server 2008 x86/x64 Edition を DVD メディアからローカルハードドライブに インストールできない	19
PowerEdge 6600/6650 システムで、デバイ スマネージャの ATA チャネル 1 に黄色い 警告マークが表示される	20
Dell PowerEdge 2650/4600 システムの一 部の DVD ROM ドライブから Microsoft Windows Server 2008 をインストールす ることができない	20

休止状態からの初めての復帰時に Windows エラーリカバリ画面が表 示される	21
Windows 管理グループのメンバーがグ ループの権限を継承しない	21
slsvc.exe プロセスの実行中に、 Microsoft Application Verifier 3.1 に Software Licensing エラーが表 示される	21
ファームウェアのパスを Dell Firmware Update Utility DOS (DFU DOS) プログラ ムにドラッグ & ドロップすることが できない	22
デバイスマネージャをスキャンした 時に、Windows レジストリ内のテー プデバイスのファームウェアバージ ョンがアップデートされない	22
仮想フロッピードライブが Windows Server のバックアップツールの指定場所としてリ ストに表示される	23
ディスクの管理画面におけるディス ク番号の割り当ての不整合	24
ハードドライブの解読中にステータ スバーに正確なステータスが表示 されない	24
ProStor ソフトウェアがインストール されていないと、ファイル転送中に PowerVault RD1000 リムーバブルディ スケットドライブからカートリッジ が直ちに取出される	24
テープデバイスのメーカー名が Windows Server 2008 のパーセンテー ジ記号の間に表示される	25
OpenManage Server Assistant 5.4 のポップ アップ NT LAN Manager (NTLM) 認証が 失敗する	25
SCSI ディスクが RAID 1 に設定済みの Dell システムに Windows Server 2008 を インストールできない	25

Dell PowerEdge 6650/2650/4600/6600 システムに Broadcom Ethernet Controller 用のネットワークドライバがない	26
複数のボリュームから単一のボリュームを作成できない.	26
WER サービスが開始されていない場合、Problem Reporting History (問題報告履歴) にアプリケーションのクラッシュが表示される	26
リモートの Microsoft 管理コンソール (MMC) からデバイスマネージャとディスクの管理にアクセスできない.	27
Server Core システムへのログインに使用したアカウントとは異なるアカウントから別のシステムに、Server Core からのドライブをマップできない	28
リモートサーバーを使用してインストールする際に、Windows Deployment Services (WDS) サーバーに OS イメージの言語ストリングとビルド番号が一覧表示されない	29
Terminal Services Manager に正しい接続ステータスが反映されない	29
マルチバスまたはマルチホストの構成でリセットを発行すると、I/O 要求がタイムアウトする	29
クラスタノードをシャットダウンするとクラスタがダウンしてしまう.	30
Windows Server 2008 のデバイスマネージャで、プロセッサの速度が正しく表示されない	30
USB 2.0 ケーブルを使用して Windows Server 2008 のデバッグを行うことができない.	30
古い BIOS 内でドライバを手動でロードしてから BIOS をアップグレードすると、デバイスマネージャにインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (IPMI) ドライバが 2 つ表示される.	31

Windows コマンドラインと Windows GUI とで、グループの FailoverThreshold 値の 表示が正しくない	31
マイコンピュータの下に USB キーが表 示されない	32
認証を必要とするプロキシを使用して Server Core をオンラインでアクティブ 化できない	32
Windows プレインストール環境 (WinPE) が OSLOADER 用に有効に設定されている 場合に、システムのプロパティ ウィンド ウが表示される	33
BCDedit を WinPE から起動するように設 定すると、システムが WinPE から起動 しなくなる	33
PowerEdge システムに Windows Server 2008 をインストールする間、「ディスクがいっ ぱい」のドライブがリストに表示さ れない	35

概要

本書では、Dell™ PowerEdge™ システム用 Microsoft® Windows Server® 2008 Service Pack 2 (SP2) の重要情報を説明しています。

△ 警告：システムのウイルス感染を防止するために、別のシステムを使用して Microsoft のウェブサイト microsoft.com からパッチ、修正プログラム、サービスパックをダウンロードすることをお勧めします。アップデートをシステムにインストールする前に、システムがネットワークに接続されていることを確認してください。

サポートされている最も低いバージョン – BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ

BIOS とベースボード管理コントローラ (BMC) ファームウェアのサポートされている最も低いバージョンのリストを表 1-1 に示します。

表 1-1. サポートされている最も低いバージョン – BIOS/BMC

Dell PowerEdge (PE) システム	BIOS/BMC バージョン
PE 440	1.5.0 またはこれ以降
PE 650	A05 またはこれ以降
PE 750	A06 またはこれ以降
PE 800	A03/A06 またはこれ以降
PE 830	A04/A04 またはこれ以降
PE 840	A05/A03 またはこれ以降
PE 850	A04/A04 またはこれ以降
PE 860	A05/A03 またはこれ以降
PE 1435	1.4.2/A07 またはこれ以降
PE 1750	A12/A37 またはこれ以降
PE 1800	A07/A08 またはこれ以降
PE 1850	A06/A09 またはこれ以降
PE 1855	A01/A00 またはこれ以降

表 1-1. サポートされている最も低いバージョン – BIOS/BMC (続き)

Dell PowerEdge (PE) システム	BIOS/BMC バージョン
PE 1900	2.2.6/A07 またはこれ以降
PE 1950	2.2.6/A11 またはこれ以降
PE 2600	A14/A37 またはこれ以降
PE 2650	A21/A02 またはこれ以降
PE 2800	A06/A09 またはこれ以降
PE 2850	A06/A09 またはこれ以降
PE 2900	2.2.6/A09 またはこれ以降
PE 2950	2.2.6/A10 またはこれ以降
PE 2970	1.5.2/A05 またはこれ以降
PE 6800	A05/A10 またはこれ以降
PE 6850	A05/A10 またはこれ以降
PE 6950	1.4.5/A07 またはこれ以降
PE 4600	A13/A37 またはこれ以降
PE 6600	A17/A37 またはこれ以降
PE 6650	A17/A37 またはこれ以降
PE M600	1.2.2 またはこれ以降
PE M605	2.0.5 またはこれ以降
PE M610	1.0.4/A00 またはこれ以降
PE M805	1.1.2 またはこれ以降
PE M810	1.0.4/A00 またはこれ以降
PE M905	1.1.2 またはこれ以降
PE R200	1.2.1/A00 またはこれ以降
PE R300	1.2.0/A00 またはこれ以降
PE R610	1.0.4/A00 またはこれ以降
PE R710	1.0.4/A00 またはこれ以降
PE R805	1.0.2/A00 またはこれ以降
PE R905	1.0.3/A01 またはこれ以降

表 1-1. サポートされている最も低いバージョン – BIOS/BMC (続き)

Dell PowerEdge (PE) システム BIOS/BMC バージョン	
PE R900	1.1.6/A00 またはこれ以降
PE T100	1.1.2 またはこれ以降
PE T105	1.1.1 またはこれ以降
PE T300	1.2.0/A00 またはこれ以降
PE T605	1.2.3/A01 またはこれ以降
PE T610	1.0.4/A00 またはこれ以降

表 1-2 には、サポートされている RAID コントローラ用のシステムファームウェアおよびドライバのサポートされている最も低いバージョンを示します。

表 1-2. サポートされている最も低いバージョン – システムファームウェアおよび RAID コントローラドライバ

対応プラットフォーム	ファームウェアバージョンの最小要件	ドライババージョンの最小要件
シリアル接続 SCSI (SAS) 5/E	00.10.51.00.06.12.05.00 またはこれ以降	1.26.05.00 または これ以降
SAS 5/i	00.10.51.00.06.12.05.00 またはこれ以降	1.26.05.00 A00 ま たはこれ以降
PowerEdge 840、860、1900、 2900、2970、6950、SC440、 SC1430、SC1435 上の SAS 5/iR	00.10.51.00.06.12.05.00 またはこれ以降	1.26.05.00 または これ以降
PowerEdge 1955 上の SAS 5/iR		1.26.05.00 または これ以降
PowerEdge 1950、2900、2950 上の PowerEdge Expandable RAID Controller (PERC) 5/E ア ダプタ	5.2.1-0066 またはこれ 以降	2.23 またはこれ 以降
PowerEdge 1950、2900、2950 上の PERC 5/i Integrated	5.2.1-0067 またはこれ 以降	2.23 またはこれ 以降
PERC 4e/DC	5A2D またはこれ以降	7.02f またはこれ 以降

表 1-2. サポートされている最も低いバージョン-システムファームウェアおよび RAID コントローラドライバ (続き)

対応プラットフォーム	ファームウェアバージョンの最小要件	ドライババージョンの最小要件
PERC 4e/Si (PE1850)	5A2D またはこれ以降	7.02f またはこれ以降
PERC 4e/Di	5A2D またはこれ以降	7.02f またはこれ以降
PERC 4e/DC	5A2D またはこれ以降	7.02f またはこれ以降
PERC 4/SC および 4/DC	352D またはこれ以降	7.02f またはこれ以降
PE1750 上の PERC 4/Di	422D A24 またはこれ以降	7.02f またはこれ以降
PE2600 上の PERC 4/Di	252D A30 またはこれ以降	
PE1855MC 上の PERC 4/im		1.09.11 またはこれ以降
PERC 3/Di および PERC 3/Si	2.8.1.7692 またはこれ以降	1.1.4.2302 またはこれ以降
PERC 6i	6.0.2.0002 またはこれ以降	2.23 またはこれ以降
PERC 6e	6.0.2.0002 またはこれ以降	2.23 またはこれ以降
PERC 320/DC	5813 またはこれ以降	1.1.5.2392 またはこれ以降
Adaptec® 39160		6.4.630.101 またはこれ以降
Adaptec 39320/39320A	v4.30.1 またはこれ以降	7.0.4.1 またはこれ以降
Cost Effective RAID Controller (CERC) SATA 1.5/6CII	4.1.0.7419	4.1.1.7043 またはこれ以降
CERC ATA 100	6.67 またはこれ以降	6.46.2.32 またはこれ以降

既知の問題



メモ：Hyper-V の問題の詳細については、デルサポートサイト support.dell.com で Microsoft Hyper-V[®] for Dell PowerEdge Systems Running Microsoft Windows Server 2008 Installation Instructions and Important Information (Microsoft Windows Server 2008 を使用する Microsoft Hyper-V[®] for Dell PowerEdge システムのインストール手順および重要情報) を参照してください。



メモ：Hyper-V RTM コンポーネントは Windows Server 2008 SP2 で利用できません。

iSCSI オフロードへの Windows Server 2008 SP2 のインストールが失敗する

Dell 参照番号 : DF184787

Windows Server 2008 SP2 をインストールすると、システムが起動しなかったり、再起動を繰り返したりする場合があります。この問題が発生するのは、iSCSI Boot Firmware Table ドライバをサポートしないネットワークアダプタを使用する iSCSI デバイスから起動するようにシステムが設定されているためです。

この問題を回避するには、クリーンインストールを実行する前に、Microsoft サポートオンラインのウェブサイト support.microsoft.com でサポート技術情報 **952942** を検索し、提供されている修正プログラムをダウンロードして Windows Server 2008 のオフラインイメージにインストールします。

2つの PERC コントローラを使用したセットアップ中に画面が青色になる

Dell 参照番号 : DF168481

エッジツーエッジメディアまたはデルのリカバリメディアを使用して、PERC5 または PERC6 シリーズの RAID アダプタを搭載している Dell PowerEdge サーバーに Microsoft Windows Server 2008 SP2 をインストールすると、青色画面のエラーが発生する場合があります。

青色画面のエラーは、第 9、10、11 世代の Dell PowerEdge サーバーへのインストール中に発生する可能性があります。

この問題を解決するには、デルサポートサイト support.dell.com から最新バージョンの PERC ドライバをダウンロードし、インストールしてください。



メモ : PERC ドライババージョンの最小要件は 2.23 です。

msinfo32 レポートで NIC の取り外しがアップデートされない

Dell 参照番号 : 75097

タスクバーの **ハードウェアの安全な取り外し** アイコンを使用して NIC プロセスを停止した場合、変更が Microsoft システム情報 (msinfo32) レポートに反映されません。手動で更新を行っても、NIC のステータスは変わりません。

これは Windows Server 2008 x86 Edition の既知の問題です。

RAID ボリュームを複数作成すると、Windows Server 2008 SP2 をインストールできない

Dell 参照番号 : 77442

システム上に複数の RAID ボリュームを作成してから Windows Server 2008 SP2 のインストールを試みると、次のエラーメッセージが表示されます。Your hardware may not support booting to the selected partition.If you experience difficulty please ensure that disk controller is BIOS enabled. (お使いのハードウェアは、選択されたパーティションから起動できない可能性があります。問題が発生した場合は、ディスクコントローラが BIOS で有効になっていることを確認してください)。

Next (次へ) を選択すると、Windows is unable to find system volume that meets its criteria for installation (Windows はインストールの基準を満たすシステムボリュームを検出できませんでした) というエラーメッセージが表示され、OS のインストールは中断されます。

この問題を回避するには、Windows Server 2008 のインストール中には、RAID ボリュームを 1 つだけ残し、その他の RAID ボリュームをすべて取り外しておきます。



メモ：複数の RAID ボリュームを持つシステムに Windows Server 2008 SP2 をインストールすることはできません。

Java がロードされていると、Internet Explorer 7.0 で XML ファイルが開かない

Dell 参照番号 : 168952

Windows Server 2008 SP2 を実行しているシステムでは、Java がロードされていると Internet Explorer 7.0 で XML ファイルが開きません。この問題は、UTF 16 でエンコードされた XML ファイルに発生します。ただし、UTF 8 でエンコードされた XML ファイルは問題なく開きます。これは OS のセキュリティ機能であり、設計どおりの正常な動作です。

リムーバブル記憶域メディア (RSM) のワークキュー表示用のアイコンに詳細が表示されない

Dell 参照番号 : 147879

RSM のワークキュー表示をクリックすると、大きいアイコン表示、小さいアイコン表示、詳細ビュー、一覧表示のいずれにも、アイコンを説明するテキストが表示されません。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

Windows Server のバックアップツールを使用して PowerVault™ RD1000 リムーバブルディスクドライブ上に定期バックアップを行うことができない

Dell 参照番号 : 168102

Windows Server のバックアップツールを使用して PowerVault RD1000 リムーバブルディスクドライブ上に定期バックアップを設定すると、次のエラーメッセージが表示されます。No disks are available for use as a backup destination. (バックアップ先として使用できるディスクがありません)。これは、Windows Server 2008 SP2 が PowerVault RD1000 ディスクドライブをリムーバブルドライブと見なすためです。

Windows Server のバックアップツールでは、リムーバブルデバイス上に定期バックアップができないようになっています。ただし、Powervault RD1000 リムーバブルディスクドライブを使用して **1 回限りのバックアップ**操作を行うことはできます。

イベントビューアのログにページファイルサイズが不十分であることを示す赤い警告マークが表示される

Dell 参照番号 : 74185

Windows Server 2008 SP2 のインストール中に Microsoft が推奨するパーティションサイズを選択しなかった場合は、イベントビューアにページファイルサイズが不十分であることを示す赤い警告マークが表示されます。

赤い警告マークを削除するには、Windows Server 2008 SP2 のインストール中に Microsoft が推奨するパーティションサイズを選択してください。イベントビューアには、ページファイルサイズのエラーは表示されません。

Windows Server Core で、システム情報の画面にネットワーク情報が表示されない

Dell 参照番号 : 76977

Windows Server Core で、ネットワークに関する情報を表示するために `systeminfo` コマンドを実行すると、ネットワークが存在しないことを示す `N/A` が表示されます。Windows Server 2008 SP2 の製品版で `systeminfo` を実行しても、同じ問題が発生します。

これは Windows Server Core の 既知の問題です。この問題を回避するには、ネットワークポートのコマンドプロンプトで `ipconfig -all` と入力します。

Dell IT Assistant に Windows Server 2008 SP2 用のネットワークアダプタ用ドライバファイルの完全なパスが表示されない

Dell 参照番号 : 62704

Dell IT Assistant で、**Tools** (ツール) → **User Preferences** (ユーザー設定) → **Details** (詳細) の順に進み、**SNMP** → **Intel NIC** → **GenericadaptersdriversAttrtable** の順に選択すると、NIC のアダプタドライバの完全なパスが表示されません。ドライバのパスは一部が欠けて表示されます。

これは表面的な問題であり、機能には影響ありません。属性表はきちんと表示されます。

Dell 39320A SCSI Ultra320 Lead コントローラカードに接続している場合、デバイスマネージャに Dell PowerVault 124T DLT VS160 Autoloader が表示されない

Dell 参照番号 : 145111

Dell PowerVault 124T DLT VS160 Autoloader を Dell 39320A Small Computer System Interface (SCSI) コントローラカードに接続すると、**デバイスマネージャ** の画面に Autoloader が表示されません (それでもバックアップは実行できます)。ただし、BIOS の画面には表示されます。

これは表面的な問題です。この問題を解決するには、サードパーティ製のバックアップソフトウェアをインストールします。

Windows Server 2008 SP2 が実行されているシステムで Dell IT Assistant 8.2 にログインできない

Dell 参照番号 : 189345

Windows Server 2008 SP2 に Internet Explorer 7.0 をインストールしたシステムで Dell IT Assistant にログインを試みると、HTTPS エラーが発生する場合があります。

これは間欠的な問題です。この問題を解決するには、Internet Explorer の信頼済みサイトのリストに Dell IT Assistant を追加します。

復元の初回試行時に Windows NT® バックアップ / 復元ユーティリティが間欠的に失敗する

Dell 参照番号 : 191438

Windows NT バックアップ / 復元ユーティリティを初めて実行すると、次のエラーメッセージが表示されて復元が失敗することがあります。
"C: is not responding." (C: が応答していません)。ただし、データは失われておらず、ユーティリティをもう一度実行すると、システムのバックアップと復元は正常に行われます。エラーはランダムプロンプトです。

PowerVault RD1000 リムーバブル記憶域メディアをフリーカテゴリに置いておくとリムーバブル記憶域マネージャ (RSM) にエラーメッセージが表示される

Dell 参照番号 : 195981

RSM では、PowerVault RD1000 リムーバブル記憶域メディアをバックアップ用として **Free Category** (フリーカテゴリ) の下に移動すると、Could Not Write to Media (メディアへの書き込みができませんでした) というエラーメッセージが表示されます。ただし、free コマンドは機能し、バックアップは正常に行われます。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

ファームウェアバージョン 78 を使用する BIOS リビジョン 0.2.4 と PERC 6i コントローラカードを備えた Dell PowerEdge T605 システムで、再起動ごとにシステムイベントログが生成される

Dell 参照番号 : 177892

0.2.4 BIOS リビジョンを使用し、ファームウェアバージョン 78 を使用する Dell PERC 6i コントローラカードを備えた Dell PowerEdge T605 システムでは、システムイベントログに複数の OEM Event Data Record (OEM イベントデータ記録) エラーが表示される場合があります。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

デフォルトでは、クラスタのイベントログが時系列表示になっていない

Dell 参照番号 : 141322

クラスタのイベントを照会すると、イベントが時系列でソートされていません。そのため、最近のエラーを探すのにログをスクロールする必要があります。

Microsoft では、この問題の修正ファイルを用意しています。詳細については、Microsoft のサポートサイト support.microsoft.com を参照してください。

iSCSI LUN (IBFT を使用して接続) があってサーバーから認識できる場合、Windows Server 2008 x86/x64 Edition を DVD メディアからローカルハードドライブにインストールできない

Dell 参照番号 : 163289

iSCSI LUN があってシステムから認識できる場合、Windows Server 2008 x86/x64 Edition を DVD メディアからローカル SATA ハードドライブにインストールできません。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

PowerEdge 6600/6650 システムで、デバイスマネージャの ATA チャネル 1 に黄色い警告マークが表示される

デルの欠陥 : 46691

Dell PowerEdge 6600/6650 システムでは、チャンネルに問題がないにもかかわらず、デバイスマネージャで ATA チャネル 1 に黄色い警告マークが表示されます。

これは表面的な問題であり、機能には影響ありません。黄色い警告マークを消すには、Microsoft のサポートサイト support.microsoft.com からパッチをダウンロードしてください。

Dell PowerEdge 2650/4600 システムの一部の DVD ROM ドライブから Microsoft Windows Server 2008 をインストールすることができない

Dell PowerEdge 2650/4600 システムの一部の DVD ROM ドライブから Microsoft Windows Server 2008 SP2 のインストールを試みると、オプティカルドライブのタイミングの問題が原因でインストールが失敗します。DVD ROM ドライブがアドバンスドテクノロジアタッチメント (ATA) のコマンドにタイムリーに反応しないため、システムは別のコマンドを送信せざるを得なくなります。OS はこの最新のシステムコマンドが DVD ROM ドライブコマンドの出力であると想定するため、インストールが失敗します。

PowerEdge 2650/4600 システム用の推奨 DVD ROM ドライブでは、この問題は発生しません。以下のパーツナンバーのオプティカルドライブからは、OS のインストールが可能です。

- 1J255
- 2M451
- 6R382
- 9T494
- FG219
- MI689



メモ：オプティカルドライブのパーツナンバーは、ドライブのバーコードステッカーに記載されています。

休止状態からの初めての復帰時に Windows エラーリカバリ画面が表示される

Dell 参照番号 : 144905

Windows Server 2008 SP2 を使用している Dell PowerEdge システムで休止状態から初めて復帰するときに、ログイン画面ではなく、**Windows エラーリカバリ** ダイアログボックスと起動オプションが表示されます。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

Windows 管理グループのメンバーがグループの権限を継承しない

Dell 参照番号 : 88971

デフォルトで、Windows Server 2008 SP2 の管理グループには COM セキュリティの **Remote Activation** (リモートからのアクティブ化) と Windows Management Instrumentation (WMI) ルートの **Remote Enable** (リモートの有効化) の権限があります。ただし、デフォルトの権限を継承するのは、管理者アカウントのみです。管理グループの他のメンバーが WMI と COM に完全にアクセスするには、特定の権限が必要です。

この問題を回避するには、次の手順を実行して管理グループのメンバーにアクセスを許可します。

- サーバーシステム上の DCOM に対して **Remote Activation** (リモートからのアクティブ化) を有効にします。
- サーバーシステム上の WMI に対して **Remote Enable** (リモートの有効化) を有効にします。

slsvc.exe プロセスの実行中に、Microsoft Application Verifier 3.1 に Software Licensing エラーが表示される

Dell 参照番号 : 69097

OS がアクティブになっているシステム上で **slsvc.exe** (ソフトウェア使用許諾サービス) プロセスに対して Microsoft Application Verifier 3.1 を実行すると、Software Licensing Service reported that the License is Tampered (ライセンスが改ざんされたとの報告がありました) というエラーメッセージが表示されます。

アプリケーションのリストから **slsvc.exe** を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 セーフモードでシステムにログインします。
- 2 Microsoft Application Verifier を実行します。
- 3 **sbsvc.exe** がアプリケーションのリストから削除されていることを確認します。
- 4 システムを再起動します。

ファームウェアのパスを Dell Firmware Update Utility DOS (DFU DOS) プログラムにドラッグ & ドロップすることができない

Dell 参照番号 : 119616

DFU DOS プログラムを使用してファームウェアのアップグレードを行う際に、ファームウェアのパスを DFU のパスの上にドラッグ & ドロップすることができません。代わりに、デバイスのファームウェアのパス全体を入力する必要があります。

たとえば、C:\Dell\Firmware\AEIOU.FW のように入力します。

ユーティリティは入力されたパスにファームウェアファイルを探そうとするため、パスを正しく入力しないとアップグレードが失敗します。

この問題を回避するには、**スタート → ファイル名を指定して実行** の順にクリックし、このボックスにファイルをドラッグします。この方法だとファイルの完全なパス名が表示されるため、正しく入力できます。

デバイスマネージャをスキャンした時に、Windows レジストリ内のテープデバイスのファームウェアバージョンがアップデートされない

Dell 参照番号 : 99240

テープデバイスのファームウェアをフラッシュしても、テープデバイスのハードウェアの詳細画面と Windows レジストリには依然として古いファームウェアバージョンが表示されます。ただし、ファームウェアユーティリティ (TapeRx、AppleTalk、DUP's など) には最新のファームウェアバージョンが表示されます。

この問題を解決するには、システムを再起動して最新のファームウェアバージョンを表示する必要があります。新しいファームウェアバージョンを表示するには、**デバイスマネージャ** 画面を開き、ハードウェアを再スキャンするという方法もあります。

仮想フロッピードライブが Windows Server のバックアップツールの指定場所としてリストに表示される

Dell 参照番号 : 120261

Windows Server 2008 SP2 では、仮想フロッピードライブがリムーバブル USB メディアとして表示され、Windows Server のバックアップツールにもバックアップ用のリムーバブルメディアデバイスとして表示されます。したがって、仮想フロッピードライブはバックアップ用のメディアオプションの 1 つとして表示されます。



メモ：仮想フロッピードライブ上にバックアップを取ることはお勧めできません。

Windows Server のバックアップツールのバックアップの指定場所から仮想フロッピードライブを削除するには、以下のコマンドを使用します。

リモート **Racadm:**

```
racadm -r <IP アドレス> -u <ユーザー名> -p <パスワード>  
config -g cfgRacVirtual -o cfgVirMediaFloppyEmulation 1
```

ローカル **Racadm:**

```
racadm config -g cfgRacVirtual -o  
cfgVirMediaFloppyEmulation 1
```

デフォルトは `cfgVirMediaFloppyEmulation 0` です。

これにより、USB ベースのフロッピードライブをエミュレートしていた仮想フロッピードライブのデフォルトの動作が、普通のフロッピードライブをエミュレートするように変わり、仮想フロッピードライブが Windows Server のバックアップツール内にバックアップオプションとして表示されなくなります。

ディスクの管理画面におけるディスク番号の割り当ての不整合

Dell 参照番号 : 139206

Windows Server 2008 SP2 をインストールすると、**ディスクの管理** 画面にディスク番号が正しく表示されなくなります。

たとえば、Windows Server のインストール場所としてディスク 1 を選択した場合、インストールの完了時に、**ディスクの管理** 画面には、C パーティションがディスク 1 ではなくディスク 3 の中に作成されたように表示されることがあります。

ディスク番号の割り当ての不整合は、システムを再起動するか、または Windows Server メディアからシステムを起動するたびに発生します。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

ハードドライブの解読中にステータスバーに正確なステータスが表示されない

Dell 参照番号 : 163532

Bitlocker をオフにしてからハードドライブを解読しようとする、**Bitlocker** ウィンドウの背後にステータスバーがポップアップします。ステータスバーが 9 ~ 20 パーセント進むと、バーの表示が消え、次のメッセージが表示されます。Decryption of C: is complete (C ドライブの解読が完了しました)。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

ProStor ソフトウェアがインストールされていないと、ファイル転送中に PowerVault RD1000 リムーバブルディスクドライブからカートリッジが直ちに取出される

Dell 参照番号 : 80327

ProStor ソフトウェアがシステムにインストールされていない場合、ファイル転送中に PowerVault RD1000 リムーバブルディスクドライブのエJECTボタンを押すと、カートリッジが直ちに取出され、ファイル転送が中断されます。これにより、ファイルシステムが壊れるおそれがあります。これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

テープデバイスのメーカー名が Windows Server 2008 のパーセンテージ記号の間に表示される

Dell 参照番号 : 140654

デバイスのプロパティ タブに表示されている一部のテープドライブのメーカー名が、パーセンテージ記号の間に表示されることがあります。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。これは表面的な問題であり、機能には影響ありません。

OpenManage Server Assistant 5.4 のポップアップ NT LAN Manager (NTLM) 認証が失敗する

Dell 参照番号 : 94201

Windows Server 2008 SP2 が実行されているシステムの OpenManage Server Administrator 5.4 では、ポップアップ NTLM 認証が失敗します。この問題を回避するには、NTLM ダイアログボックスで **Cancel** (キャンセル) をクリックし、ブラウザを使用してログインします。

SCSI ディスクが RAID 1 に設定済みの Dell システムに Windows Server 2008 をインストールできない

Dell 参照番号 : 102680

SCSI コントローラに接続された RAID 1 に設定済みの SCSI ディスクに Windows Server 2008 SP2 のインストールを試みると、次のエラーメッセージが表示されます。

Windows is unable to find system volume that meets its criteria for installation—Please ensure that disk controller is BIOS enabled. (Windows はインストールの基準を満たすシステムボリュームを検出できませんでした。ディスクコントローラで BIOS が有効になっていることを確認してください)。

この問題を解決するには、パーティションを削除し、新しいパーティションを作成してから、システムを再起動します。

Dell PowerEdge 6650/2650/4600/6600 システムに Broadcom Ethernet Controller 用のネイティブドライバがない

Dell 参照番号 : 141791

Windows Server 2008 には、PowerEdge 6650/2650/4600/6600 システムで使用する Broadcom Ethernet Controller 用のネイティブドライバがありません。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。デルサポートサイト **support.dell.com** からドライバをダウンロードするか、または **Common Deployment Utility** を使用してドライバをインストールする必要があります。

複数のボリュームから単一のボリュームを作成できない

Dell 参照番号 : 131082

複数のボリュームを圧縮して結合することによって、新しい 1 つのボリュームを作成することはできません。ただし、当初圧縮したボリュームの数に等しい数のボリュームを作成することは可能です。

これは設計どおりの正常な機能です。

WER サービスが開始されていない場合、Problem Reporting History (問題報告履歴) にアプリケーションのクラッシュが表示される

Dell 参照番号 : 116981

Windows エラー報告 (WER) サービスが開始されていない場合、**Problem Reporting History** (問題報告履歴) にアプリケーションのクラッシュが表示されます。セーフモードでは WER サービスがデフォルトで無効になっているため、セーフモードにログインすると、この報告に問題が記録される可能性があります。この問題は Windows Server x86 と x64 の両方のエディションで発生します。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

リモートの Microsoft 管理コンソール (MMC) からデバイスマネージャとディスクの管理にアクセスできない

Dell 参照番号 : 56675 および 106121

クライアント MMC から **デバイスマネージャ** タブや **ディスクの管理コンソール** にアクセスを試みても、開くことができません。これは欠陥ではなく、OS が本来そのように設計されているためです。代わりに、ターミナルサービスを使用してボリュームを管理することが可能です。

この問題を回避するには、Windows Server Core がインストールされているシステムで次の手順を実行して、**デバイスマネージャ** にアクセスします。

- 1 次のコマンドを実行して、システム上でファイアウォール管理の例外を有効にします。

```
netsh advfirewall set currentprofile settings remotemanagement enable
```
- 2 次のコマンドを実行して、システム上でリモートファイアウォール管理を有効にします。

```
netsh firewall set service remoteadmin enable
```
- 3 次のコマンドを実行し、クライアントシステム上で **cmdkey** コマンドを使用して、リモートの資格情報を設定します。

```
cmdkey /add:<サーバー名> /user:<ユーザ名> /pass:<パスワード> (パスワードのプロンプトが表示されるようにするには、/pass スイッチを省略します。)
```
- 4 次の手順を実行して、システム上で **PnP インターフェイスへのリモートアクセスを許可する** を有効にします。
 - a **MMC** を実行し、**グループポリシーオブジェクト** エディタを追加します。
 - b リモートシステムに接続します。**ローカルコンピュータポリシー** → **コンピュータの構成** → **管理用テンプレート** → **システム** → **デバイスのインストール** の順にクリックし、**PnP インターフェイスへのリモート アクセスを許可する** を有効にします。

5 システムを起動します。

リモート MMC によってディスクの管理を有効にするには、**Server Core** を使用するコンピュータで次のコマンドを実行します。

```
netsh advfirewall set currentprofile settings
remotemanagement enable

netsh firewall set service remoteadmin enable

netsh advfirewall firewall set rule group="Remote
Volume Management" new enable=yes
```

Server Core システムへのログインに使用したアカウントとは異なるアカウントから別のシステムに、**Server Core** からのドライブをマップできない

Dell 参照番号 : 86770

net use コマンドを使用し、**Server Core** ボックスへのログインに使用したアカウントとは異なる管理者のアカウント名とパスワードを使用して、**Windows Server 2008 SP2** の **Server Core** バージョンを実行しているシステムからリモートサーバーにドライブをマップしようとする、**Access Denied** (アクセスが拒否されました) および **Incorrect Password** (パスワードが正しくありません) というエラーメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1 Windows レジストリで、次の **DWORD** 値を 1 に設定します。

```
HKLM\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\system\LocalAccountTokenFilterPolicy
```

0 と 1 の設定は次のとおりです。

0—フィルタが設定されたトークンを構築 (リモート UAC が有効)

1—管理者権限のあるトークンを構築 (リモート UAC が無効)

2 **net use** コマンドを使用して、**Server Core** システムから Administrator としてログインします

リモートサーバーを使用してインストールする際に、Windows Deployment Services (WDS) サーバーに OS イメージの言語ストリングとビルド番号が一覧表示されない

Dell 参照番号 : 72794

Windows Server 2008 SP2 をインストールするために WDS からリモートサーバーを起動すると、WDS サーバー上で使用できるイメージに基づいて、OS を選択できます。現在、WDS サーバーにはビルド番号は表示されないようになっています。そのため、OS のイメージを一意に識別することはできません。

この問題を回避するには、ユーザー自身にとってわかりやすいようにビルドの名前を変更する必要があります。

Terminal Services Manager に正しい接続ステータスが反映されない

Dell 参照番号 : 78277

PowerEdge システムで Terminal Services Manager を実行している際に、サービスマネージャに接続されているサーバーシステムのいずれかを物理的に取り外しても、サーバーは依然としてリストに表示されたままで、画面が再表示された後も表示が消えません。

リストからサーバー名を削除するには、グループからサーバーシステムを手動で削除する必要があります。これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

マルチパスまたはマルチホストの構成でリセットを発行すると、I/O 要求がタイムアウトする

Dell 参照番号 : 139251

マルチパスまたはマルチホストの構成で、I/O 要求がその特定のパス / ホストに送信されている時に、別のパス / ホストからリセットを発行すると、要求が実行されない場合があります。このパス / ホストから発行される次の I/O は、以下の確認条件付きで返されます。

Unit Attention (ASC/ASCQ = 29h/00h)

Storport が Unit Attention (ユニットの注意) を受け取るとき、理想的には、未処理の I/O 要求が実行されていないことを認識する必要があります。中止 / 再試行が必要ですが、未処理の I/O はタイムアウトになります。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

クラスタノードをシャットダウンするとクラスタがダウンしてしまう

Dell 参照番号 : 141340

サーバーマネージャで、**スタート** → **終了オプション**の手順に従ってクラスタサービス (MSCS) の停止またはノードの **シャットダウン** を行うと、警告メッセージが表示されません。にもかかわらず、クラスタ全体がシャットダウンします。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

Windows Server 2008 のデバイスマネージャで、プロセッサの速度が正しく表示されない

Dell 参照番号 : 148587

PowerEdge M600 システムに 1.6 GHz Intel® Xeon® 5100 シリーズのプロセッサを取り付けている場合、Windows Server 2008 SP2 の **デバイスマネージャ** の **プロセッサ** タブに、次の情報が表示されます。

BIOS セットアップの表示では、どちらのコアも 1.60 GHz で 5110 ですが、最初のコアは 2.33 GHz で 5140、2 番目のコアは 3.00 GHz で 5160 です。

このメッセージ表示は設計どおりです。周波数の異なるプロセッサの使用は無効です。詳細については、Microsoft サポートサイト

support.microsoft.com で技術情報の記事 **912437** を参照してください。

USB 2.0 ケーブルを使用して Windows Server 2008 のデバッグを行うことができない

Dell 参照番号 : 71157

USB 2.0 ケーブルを使用して Windows Server 2008 SP2 のデバッグを試みると、ホストは **WinDbg** を使用してターゲットに接続することができません。

この問題を回避するには、シリアルケーブルまたは Firewire を使用してデバッグを行ってください。

古い BIOS 内でドライバを手動でロードしてから BIOS をアップグレードすると、デバイスマネージャにインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (IPMI) ドライバが2つ表示される

Dell 参照番号 : 99564

古い BIOS 内に IPMI ドライバをロードしてから、BIOS を新しいバージョンにアップグレードすると、デバイスマネージャ画面に古いドライバの表示が残ります。デバイスマネージャには競合の発生は示されていませんが、ドライバの古いインスタンスについては、リソースタブが消えています。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

Windows コマンドラインと Windows GUI とで、グループの FailoverThreshold 値の表示が正しくない

Dell 参照番号 : 174983

2 ノードの Windows 2008 Server SP2 のフェイルオーバークラスタにおいて、Windows コマンドラインにデフォルトの FailoverThreshold 値が 0xFFFFFFFF として表示されます。

Failover Cluster Management の GUI には、FailoverThreshold 値は **2** と表示されます。



メモ : コマンド `cluster group /prop` を使用して FailoverThreshold 値を入手します。

デフォルト値は **(N-1)** で、N はクラスタ内のノード数です。したがって、このプロパティの値は、この場合は **1** と表示されているべきです。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。

マイコンピュータの下に USB キーが表示されない

Dell 参照番号 : 142182

USB ドライブが **マイコンピュータ** ウィンドウに表示されない場合があります。ただし、**システムトレイ**内には、接続されている USB メディアを取り外すためのアイコンが表示されることがあります。

USB ドライブを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 **Server Manager** (サーバーマネージャ) → **Disk Management** (ディスクの管理) → **USB Mass Media** (USB 大容量記憶メディア) の順にクリックします。
USB キーを右クリックし、**Open** (開く) を選択します。
- 2 **マイコンピュータ**の下に USB メディアが表示されます。

認証を必要とするプロキシを使用して Server Core をオンラインでアクティブ化できない

Dell 参照番号 : 87644

認証を必要とするプロキシを使用して **Server Core** システムのアクティブ化を試みると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

The command line "slmgr.vbs -ato" is generating a "A connection with the server could not be established" (コマンドライン "slmgr.vbs -ato" が「サーバーとの接続が確立できませんでした」という状況の原因となっています)。

この問題を回避するには、Windows Server TechCenter のウェブサイト technet.microsoft.com/en-us/library/cc753802.aspx で、『Server Core Installation Option of Windows Server 2008 Step-By-Step Guide』(Windows Server 2008 の Server Core のインストールオプションに関する詳細な手順) を参照してください。

Windows プレインストール環境 (WinPE) が OSLOADER 用に有効に設定されている場合に、システムのプロパティ ウィンドウが表示される

Dell 参照番号 : 72440

BCD 内で WinPE が **OSLOADER** 用に **ON** に設定されている場合、それ以降の再起動時に **システムのプロパティ** ウィンドウが表示されます。

これは Windows Server 2008 SP2 の既知の問題です。



メモ : 正しいコマンドは WinPE=Yes です。WinPE=ON は無効なコマンドです。

BCDedit を WinPE から起動するように設定すると、システムが WinPE から起動しなくなる

Dell 参照番号 : 72445

BCD edit のマニュアルには、BCD 内にフラグを設定すれば、システムが **WinPE** から起動するように設定できると書かれています。しかし、BCD を設定してシステムを再起動すると、システムは **WinPE** から自動的に起動しません。

以下の手順に従って、**WinPE** (RAM ディスクから) と Windows Server 2008 のデュアルブートを実行します。一部修正を施せば、**WinPE** ブートを WIN ブートではなくフラットファイルブートに変更できます。

システム構成 :

- パーティション : ユーティリティパーティション (非表示) と OS (C:\)
- WinPE の場所 : C:\sources\boot.wim (RAM ディスクから起動する WIN フォーマットでは、フラットファイルフォーマットも可能です。)
- OS の場所 : C:\

手順：

- 1 Windows Server 2008 のインストールメディアから **boot\boot.sdi** を **C:\boot**（デフォルトでは、このフォルダは Windows エクスプローラ内に隠れています）にコピーします。

- 2 以下の一連のコマンドを使用して、BCD ストア内に **ramdiskoptions** オブジェクトを作成します。

```
bcdedit /create {ramdiskoptions} /d "Ramdisk options"  
bcdedit /set {ramdiskoptions} ramdisksdidevice  
partition=c:  
bcdedit /set {ramdiskoptions} ramdisksdipath  
\boot\boot.sdi
```

ストリング {ramdiskoptions} は、オブジェクトの GUID（グローバルユニーク識別子）の有名な名前です。

- 3 次のコマンドを使用して、新しいブートエントリを作成します。

```
bcdedit -create /d "Windows PE boot" /application  
OSLOADER
```

このエントリにより、WINPE から起動するオプションが使用できるようになります。

- 4 手順 3 により、新しく作成されたブートエントリに関連付けられた GUID が返されます。これは以下の例では **NewGUID** と記されています。以下の一連のコマンドを実行して、ブートエントリを設定します。

```
bcdedit /set {NewGUID} device ramdisk=  
[c:]\sources\boot.wim,{ramdiskoptions}  
bcdedit /set {NewGUID} path  
\windows\system32\boot\winload.exe  
bcdedit /set {NewGUID} osdevice ramdisk=  
[c:]\sources\boot.wim,{ramdiskoptions}  
bcdedit /set {NewGUID} systemroot \windows  
bcdedit /set {NewGUID} winpe yes bcdedit /set  
{NewGUID} detecthal yes  
bcdedit /displayorder {NewGUID} /addlast
```

- 5 これで、システム起動時に追加の起動オプション Windows PE boot が用意されており、**c:\sources\boot.wim** からの起動に使用できます。

PowerEdge システムに Windows Server 2008 をインストールする間、「ディスクがいっぱい」のドライブがリストに表示されない

Dell 参照番号 : 139139

初期化されていない「ディスクがいっぱい」のドライブは、Windows Server 2008 SP2 インストール時の GUI に表示されません。ただし、**DiskPart** ユーティリティを使用するとディスクを表示できます。

この問題を解決し、インストール中に表示されるようにするには、**DiskPart** を使用してディスクをパーティション分割する必要があります。

